

わらい 金子みすゞ

それはきれいな薔薇いろで、
芥子つぶよりかちいさくて、
こぼれて土に落ちたとき、
ぱっと花火がはじけるように、
おおきな花がひらくのよ。
もしも涙がこぼれるように、
こんな笑いがこぼれたら、
どんなに、どんなに、
きれいでしょう。

もしも涙がこぼれるように…と書かれていることからみると、みすゞさん自身、また、周りの人たちは涙をこぼすことが多かったのでしょうか。

26歳でこの世を去ったみすゞさんは、さまざまなことがあり、最期には自ら命を絶ててしまいます。幸福な時期もあったと思いますが、生涯を通じては、決して幸福だったとは言えなかったのではないのでしょうか。

つらい出来事がたくさんあって、もっと笑顔でいられたら…と祈る気持ちもあったのだと思います。詩の最後に、涙の代わりに笑顔が咲けば、どんなにどんなにきれいでしょう…と、どんなにどんなにと繰り返していることによってとても強調されています。

笑いは最高の薬、そして、よく笑う人は長生きをされると言われます。

また、笑う門には福来る…というような「笑い」「笑顔」の格言はいろいろあります。笑顔は自分の気持ちを明るくするだけでなく、周りの人にも影響を与えます。

人と接するとき、無表情ではなく、やわらかい表情で接することのできる人でありたいと思います。その笑顔が広がって行きますように。

そしてまた、わたしたちは子どもたちの笑顔を守りぬいていかなければなりません。

2026年、子どもたちの幸せを祈りつつ、新たな気持ちを持って歩んでいきたいと思います。

2026年1月1日の読売新聞 編集手帳より

「笑顔」にはほんの一瞬すれ違った人さえ幸せにする力がある。

《何億という人間が生きているが、顔はそれよりもたくさんある》 リルケ



さて、わたしたちはこの1年どう過ごしましょうか…